

(単元名) 根拠を明確にして書こう *参考:『新編 新しい国語1』(東京書籍)

提案内容

◆「単元づくりのプロセス(『新教育課程を活かす能力ベースの授業づくり』p18)」を用いた教材研究

単元づくりでは、学習指導要領を丁寧に読み解き目指すべき学びの方向性の根拠を明らかにすることと、目の前の子供にとって価値ある学びを保障することが大切である。それに向けて、教科書と正しい付き合い方をしながら単元をデザインする力が期待されている。参考:『新教育課程を活かす能力ベースの授業づくり』p18・19

生徒の実態を踏まえて設定した指導事項を捉える

〈知識及び技能〉
比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。【(2)イ】
引用する場合は、まず何のために引用するかという目的を明確にすることが必要である。原文に正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にすることなどに注意することも必要である。
〈思考・判断・表現〉
根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。【B(1)ウ】
根拠を明確にするためには、まず、自分の考えが確かな事実に基づいたものであるかを確かめる必要がある。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、根拠を文章の中で記述する必要があることを理解して書くことが重要である。その際、例え、根拠となる複数の事例や専門的な立場からの引用などを用いることが考えられる。

付けたい資質・能力に合った教材を選定する

教科書P111「言葉の力 根拠を示す」
○意見文を書くにあたって読むことで、根拠の示し方を知る。
P236「事実と考えを区別する」
○単元の導入で、事実と考えの違いや、根拠、推測と意見の違いについて復習し、自分の考えを構築する際の助けとする。
資料
第2次香美市振興計画 第3部 基本計画
○香美市の現状や課題を掴み、これをもとに自分の意見を築く。
○香美市 未来を描く
統計資料編
○自分の考えの根拠をさらに強めるために用いる。

学習指導要領の解釈

教科書の有効活用

単元づくりのプロセス

目的・相手意識を明確にし、付けたい資質・能力に合った言語活動を設定する

学習の系統と、身に付いている(いない)資質・能力を把握する

の成長

小学校や、1年の1学期に、総合的な学習の時間で調べてきた香美市について再度考える。10年後に、自分たちが住んでいたい街にするためにはどうすればいいと思うのかを、香美市の現状から考え、体験やいろいろな資料を根拠にして、香美市長に向けた意見文を書く活動を行う。
その活動の中で、「資料はどこからどのようなことが分かるか」「自分はなぜそう考えるのか」「説得のある根拠であるか」「根拠が正確・明確に示され、自分の考えが伝わる文章になっているか」といった、対象と言葉、言葉と言葉の関係を捉えたり問い直したりすることが必要である。

本校の1年生は、小学校5年生の「資料を生かして考えたことを書く」、6年生の「資料を生かして呼びかけよう」の単元で、それぞれ資料を読んで自分の考えをまとめる学習を行ってきた。中学校では、1学期に実施した標準学力調査の結果、「書くこと」の領域の「調べたことをもとじて、伝えたいことが明確になるように書くことができる」の項目では、全国から1.3ポイント下回っている。また、「自分の考えが伝わるように、図表を用いることができる」の項目でも、全国から5.6ポイント下回っている。自分の考えを、立場や根拠を明確に書くことに関しては、どれも全国を数ポイント上回っており、資料活用や、資料を根拠とした考えの構築に課題があると思われる。

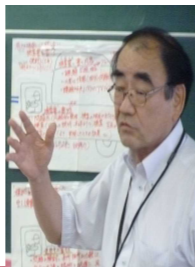
本単元で働かせる見方・考え方を捉える

単元ゴールを明確にし、ゴールとしての資質・能力を具現化したモデル例と、逆向き設計による単元計画の作成

講師の先生より 鎌倉女子大学教育学部准教授 松永 立志 氏

◆言語活動に「意図」を持たせる

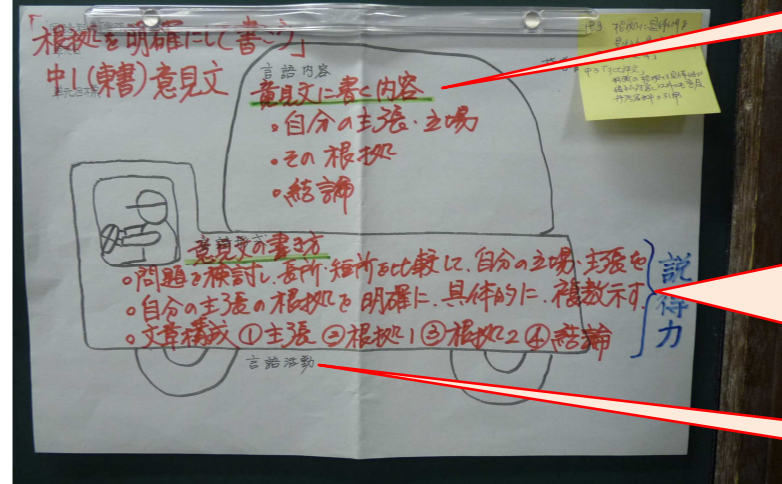
目的や相手を設定した言語活動は、学習意欲が生じやすい。ただし、目的、相手を設定するだけでなく、「意図」を持たせることが必要である。鏡野中は、教科書の課題より、香美市を対象とした課題の方が、意欲的に取り組めると考えたはずである。さらに、「市長さんにどのように思っているのか」といった期待する反応(意図)を考えさせた上で、どのような意見や根拠、構成、表現にすればよいか考えていく学習にしていくとよい。



演習 ～「トラック図」を用いた教材研究～

「トラック図」は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材研究に効果的なアイテムである。国語科の学習指導要領における「指導事項」の示し方は抽象度が高いが、トラック図を用いて教材研究をすることで、付けたい力を具体化、細分化することができる。単元づくりにあたっては、国語科で指導する技術について、同校種内及び小と中の系統や関連を明らかにして構想することが大切である。

中学校国語(東京書籍)における意見文



・何を書くか(言語内容)

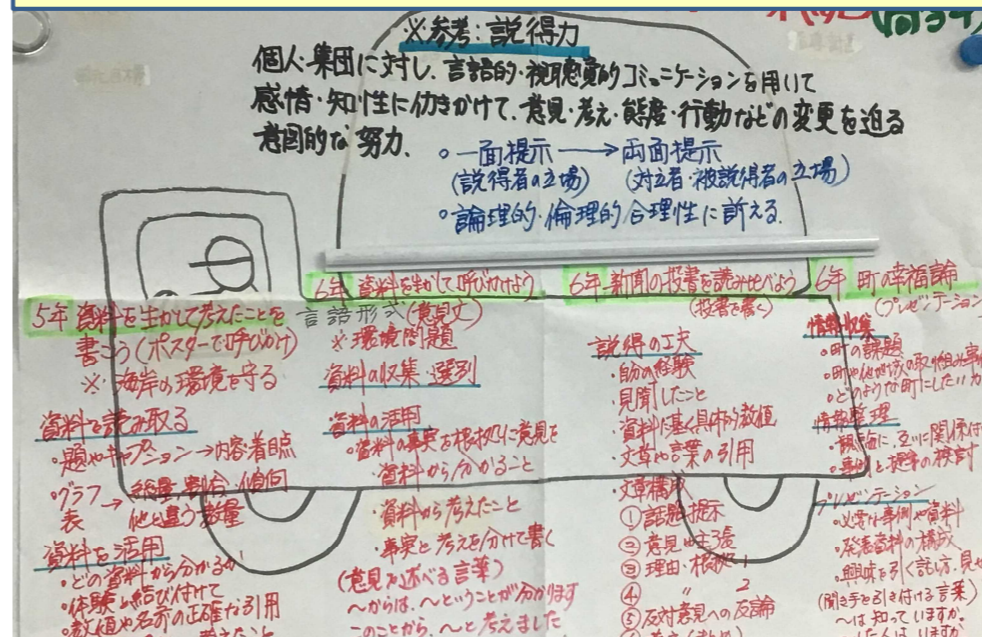
・どのような技術や言葉を使って書くか(言語形式)

※国語の授業で指導すべき部分
※学習の系統を確認すること→初めて出てきた技術は丁寧に指導し、既習の技術は活用させながら、学習活動を展開する。

・どのような言語活動を通して指導するか

国語の力の積み上げが大切!

小学校国語(東京書籍)における意見文・説得力の系統



講師の先生より

- ◆学習の系統性を教科書教材から探る
- ①本単元の指導事項や学習内容と関係のある、教科書教材(東京書籍の場合)の「言葉の力」や「言葉」の説明を参考に、既習の技術を拾い出す。
- ②教科書単元の系統を確認する。
- ③本単元で初めて出てきた技術(指導事項)と既習の技術を見極める。

中学校に小学校の教科書を、小学校に他社の教科書を揃えてください。

参加者の声

- ・学習の系統性をしっかり把握し、それぞれの段階で取り扱う指導事項を検討していくことが大切であると感じた。
- ・単元計画を立てるための教材研究をどのようにしていけばよいか具体的に学ぶことができた。「トラック図」を用い、学習する「言語内容」「言語形式」を明確にして教材研究を深めたり、単元をデザインしたりしていくようにする。